

太閤山あおい園 施設評価（令和 7 年度）

1. 決算報告

資金収支の詳細については別紙（決算書）をご参照ください。

ICT（登園管理、園児連絡システム、キャッシュレス決済システム、職員 1 人 1 台のタブレット支給など）の導入による事務作業の効率化を推進し、職員の業務負担軽減を図ることで、人的リソースの最適化に努めるための費用が増加傾向にあります。ICT の活用、研修の強化により、職員の定着率は上がったものの、産休・育休への対応として、職員紹介料の負担が大きい状態となっています。

2. 保護者アンケート

年度末の保護者アンケートでは、多くの方から「太閤山あおい園を選んでよかった」との評価をいただきました（以上児：約 56%、未満児：約 66%）。

成果

運動会や発表会などの行事、日々の生活を通じて、約 6 割の保護者がお子様の確かな成長を実感されています。また、教職員の丁寧な対応や、行き渋り時の細やかな配慮についても感謝の声が多く寄せられています。

課題

今回のアンケートは園からのリマインド不足により、回収率が例年より低迷したことが大きな反省点です。また、連絡帳の簡素化に伴い「園での様子が見えにくくなった」との声や、一部の接遇マナー、報道相に関する改善要望も受けています。

今後の対応

ICT（あおいっこアルバム等）の更新頻度を上げ、活動報告のテキスト配信を充実させることで園生活の「見える化」を推進します。

3. 職員自己評価

キャリアパスに基づき、全職員が ICT を活用した自己評価および管理者評価を実施しました。

評価基準は「A：他の職員に指導できる、B：自らの力でできる、C：指導されればできる、D：まだできていない」とし、個々の専門性と組織における役割を明確化しています。

4. 職員評価総評

全体として「強固なチームワーク」が当園の最大の強みとして確認されました。

組織力

雇用形態を問わず互いに助け合い、何気ない会話から情報共有を行う文化が根付いています。行事においても、職員全体で内容を検討し高いクオリティで実施できたことが、大きな自信と達成感に繋がっています。

保育の実践

子どもの発達段階を理解した安定的な保育・教育が行われており、特に食育（新メニューの導入や手作りおやつの実施）については、職員・子ども双方から高く評価されています。

課題

「特別な配慮を要する子」への対応において個人のスキルに頼る場面があり、組織的なサポート体制の強化が急務となっています。

5. 令和 8 年度以降に向けて

特別支援体制の強化

「事例検討会」（名称仮）等を定期化し、組織全体で対応方針を共有するとともに、専門資格（児童発達支援士等）の取得を強力に推奨します。

情報発信の最適化

Canva を活用した高画質なフォトアルバム配信の運用を検討し、保護者への発信力向上と職員の編集負担軽減を両立させます。

「見える化」と対話の確保

業務状況の可視化による負担分散と、保育の悩みや提案を率直に話し合える短いミーティング時間を意図的に設定します。

接遇と安全管理の再徹底

全職員への接遇研修の実施や、感染症情報の迅速な共有、発育測定時のプライバシー配慮など、細部まで行き届いた管理体制を構築します。